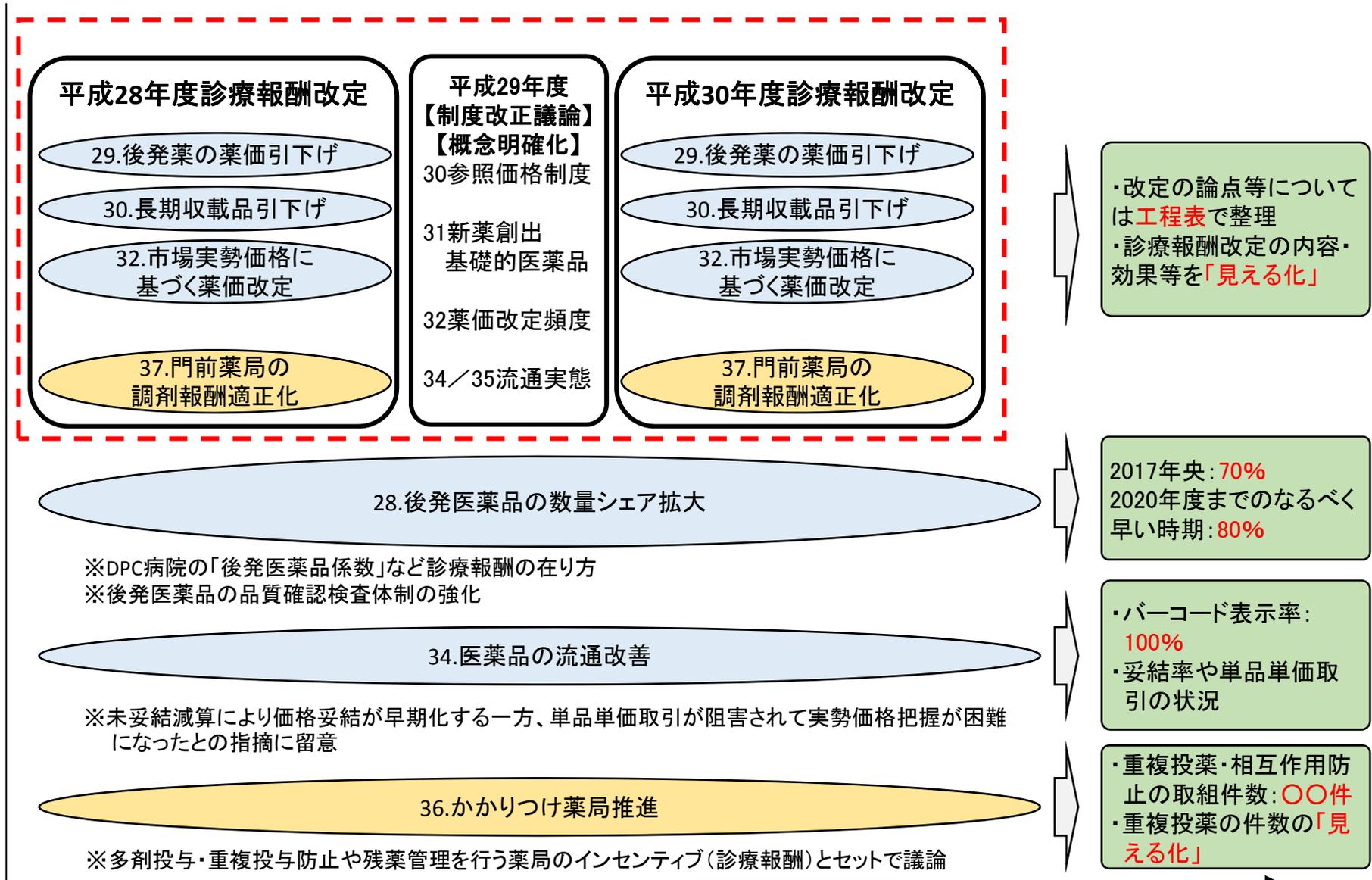


KPI設定にあたっての論点・課題の整理 (薬価・調剤報酬)

伊藤由希子
H27.10.29
社会保障WG

薬剤・調剤関係の改革に関する「見える化」、 「KPI」の設定について



政策決定基盤としての情報整備の必要性

- : 個票(NDB・DPC)を「広く」利用可能にする
 - : 公表統計のどこに何の統計があるのか、一覧化が必要
 - : 公表資料(中医協)で出されるデータ(大量のPDF)の検索システム
-

★ 統計データはPDFではなくSpread Sheetsで出すべき

★ 類似した情報は一元的にまとめるべき

例)

医療施設数 -医療施設調査

医療法人数 -医政局医療経営支援課資料

薬局施設数 -衛生行政報告例・都道府県別医療情報ネット(薬局機能)

薬局法人数 -各地方厚生局・保険薬局開設者資料

・・・それぞれ別の場所にある

場合によっては行政文書開示手続きなどを要する

項目別(②9～③8)議論 抜粋

- ②8 後発医薬品(数量シェア・安定供給・信頼性)
- ③0 長期収載品(特許切れ先発薬)の評価
- ③1 新薬創出加算
- ③6 薬局機能:調剤報酬(技術料)に関して
- ③6 薬局機能:かかりつけ薬局機能としての基準調剤加算
- ③6 薬局機能:かかりつけ薬局機能としての備蓄品目数
- ③6 薬局機能:かかりつけ薬局機能としての備蓄コスト(廃棄率)

②⑧ 後発医薬品(情報基盤・安定供給・信頼性)

- : 価格の引下げ、数量シェアの普及などについては一定の成果がある
 - : 品目数が増加しており、**情報基盤の整備**が必要である
 - : 残された課題は後発医薬品の**安定供給**や**品質の信頼性**の確保
-

★ 医薬品マスター(保険収載品リスト)において、商品名だけでなく

一般名(成分名)・薬効(ATCコード)を併記すべき

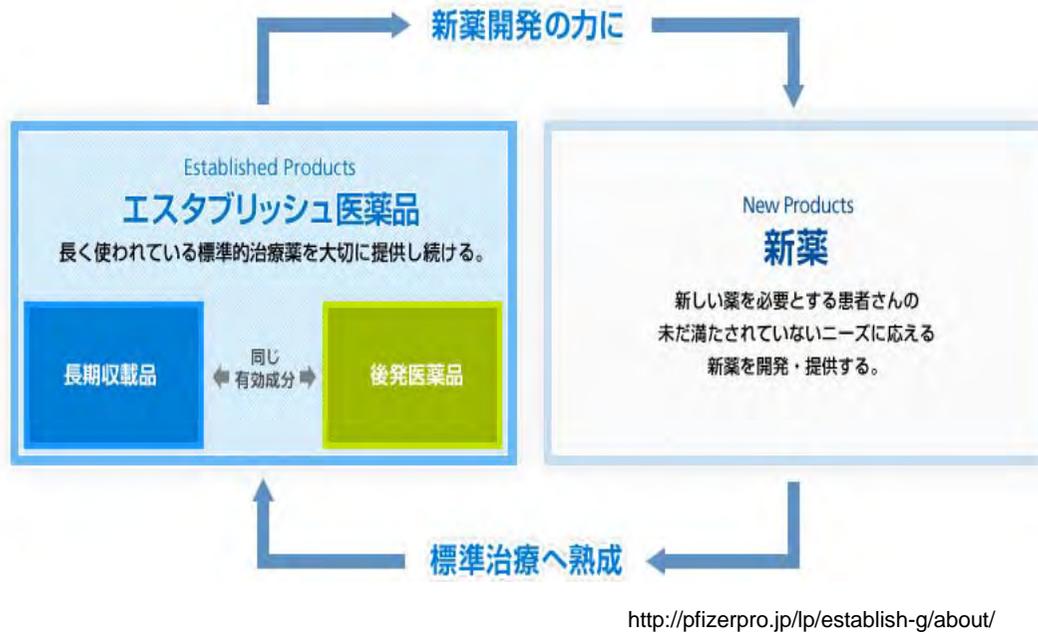
※現状ではJAPIC(商品名・成分名対応表)など業者データ購入が必要

★ 後発医薬品の品目数が非常に増えているために、商品名だけでは何の成分だかわからない。先発品も含め、**一般名(成分名)**で検索可能なマスターを構築すべき

★ 後発医薬品の信頼性向上は普及のために不可欠。そのために検査体制は重要である。ただし、品目数の増加に検査体制が追いつくのか精査が必要である。(後発医薬品約10000品目→うち検査900品目目標)

事例1：信頼性の向上

後発医薬品（長期収載品を含むEstablished Products）部門で信頼度の高いファイザーは長期収載品と他社からのライセンスインにより商品構成を拡充（信頼度・生産効率を高めるための規模拡大を行っている）



： Established Products とは、特許期間が満了した「長期収載品」と「後発医薬品」、および特許期間近の医薬品で効果と安全性が確立しているもの

： 現在、特許期間満了の自社製品だけでなく、他社からのライセンスインもふくめ、有名ブランドの製造ラインを持つ

エスタブリッシュ部門の強み

- ： 広範囲な製品ポートフォリオ
- ： 質の改良力
- ： 低価格製造

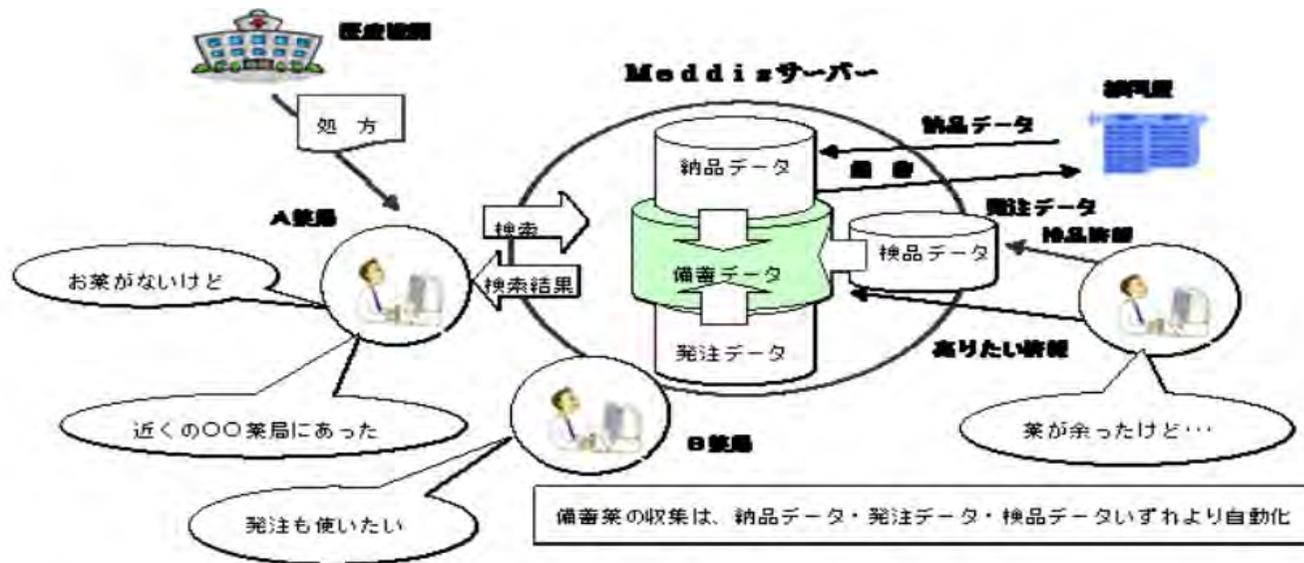
： 国内売上は約5500億円（国内後発品専業最大手の日医工の約5倍の売上規模）

事例2: 安定供給による後発品使用促進

後発品の使用率の高い地域では、地域の薬剤師主導で、在庫の一元管理や患者への後発品提供が円滑にできるような取組みを実施している（流通を工夫している）

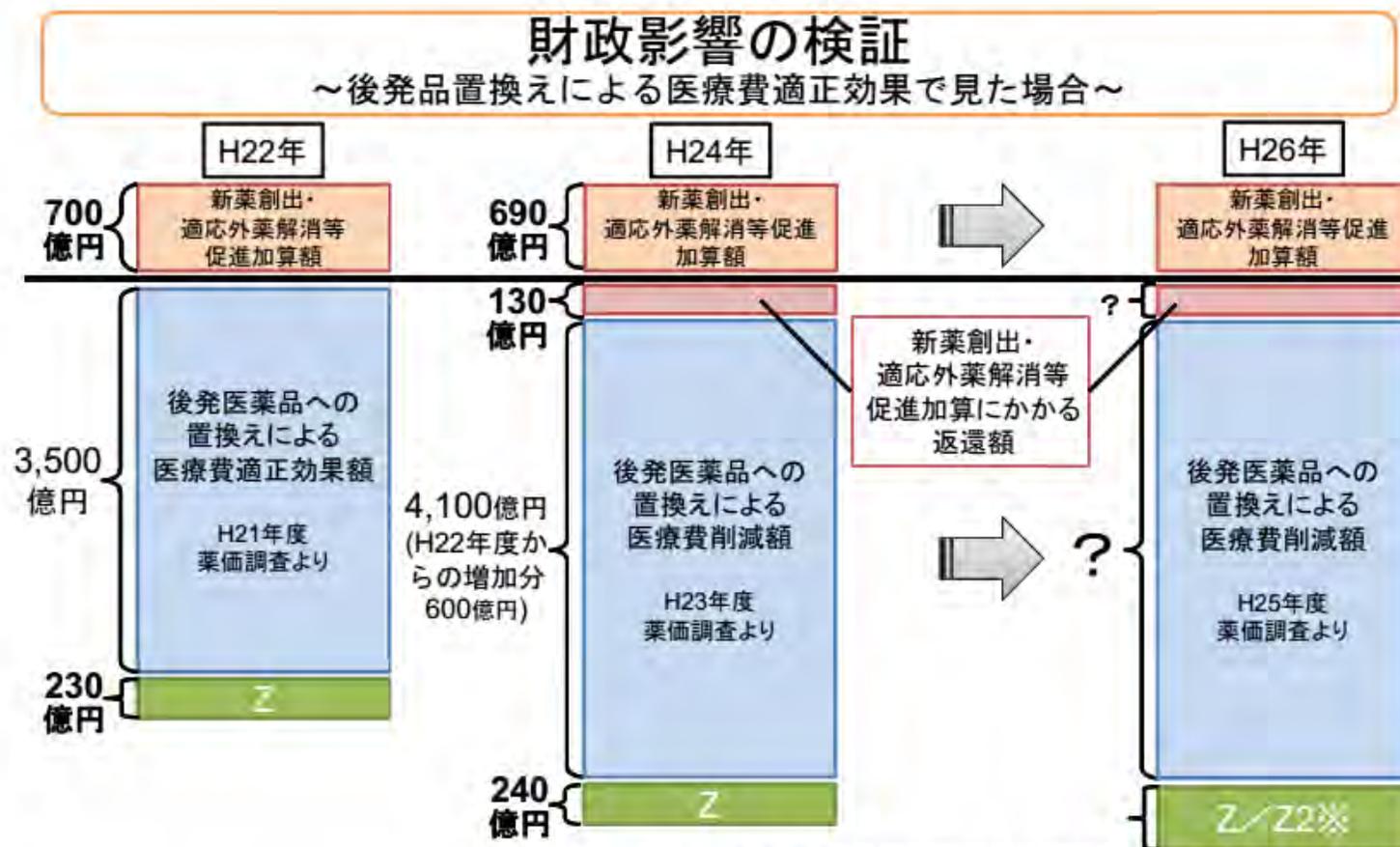
沖縄県では、調剤薬局の発注や在庫情報、卸の納品データを地域で共有し、在庫負担の軽減や、品切れの際、すぐに在庫を確保できるようなネットワークシステムを薬剤師会が構築している。

沖縄県 薬剤師会の不動在庫・備蓄ネットワークシステム (MEDISS)



三菱UFJリサーチ(2012)「ジェネリック医薬品使用推進の先進事例等に関する調査」

③⑩ 長期収載品(特許切れ先発薬)の評価



※Z：初めて後発品が薬価収載された既収載品の薬価の改定の特例

Z2：中間とりまとめで検討されている長期収載品の引下げ



中医協資料
 H25.11.13より転載

③①新薬創出加算（約700億円）

国内外の65企業702品目に適用（厚生労働省資料 H23より抜粋）

：薬価収載15年以内（後発品なし）

：市場実勢価格との薬価との乖離率が平均以下である 等が要件

新薬創出・適応外薬解消等促進加算の対象品目を有する会社

別添！

| No. | 会社名 | 加算対象 | |
|-----|----------------|------|-----|
| | | 成分数 | 品目数 |
| 1 | グラクソ・スミスクライン | 23 | 51 |
| 2 | ファイザー | 22 | 43 |
| 3 | 中外製薬 | 14 | 35 |
| 4 | MSD | 21 | 34 |
| 5 | ヤンセンファーマ | 16 | 32 |
| 6 | ノバルティス ファーマ | 17 | 30 |
| 7 | アステラス製薬 | 10 | 25 |
| 8 | サノフィ・アベンティス | 12 | 24 |
| 9 | アストラゼネカ | 10 | 23 |
| 10 | 第一三共 | 11 | 22 |
| 10 | 日本イーライリリー | 6 | 22 |
| 12 | 大日本住友製薬 | 11 | 19 |
| 13 | 小野薬品工業 | 7 | 15 |
| 13 | 塩野義製薬 | 5 | 15 |
| 13 | ノボ ノルディスク ファーマ | 4 | 15 |
| 16 | 田辺三菱製薬 | 8 | 14 |
| 17 | バイエル薬品 | 11 | 13 |

「新薬」そのものではなく「新薬を作った企業」の医薬品に加算している
 2000年から収載している古い医薬品も「新薬創出加算」の対象となっている
 ※2014年時点で758品目：ミクス編集部による2014年度薬価改定のアンケート調査(下記)

2014年度薬価改定 各社の新薬創出・適応外薬解消等促進加算の適用品目

| 企業名 | 製品名・規格 | 一般名 | 改定率 | 10年度改定 | 12年度改定 | 薬価収載の年月 |
|------------|--------------------|-------------------------|---------|--------|--------|----------|
| 旭化成ファーマ | テリボン | テリバラチド酢酸塩 | プラス2.9% | 未発売 | × | 2011年11月 |
| | リコモジュリン | トロンボモデュリン アルファ (遺伝子組換え) | プラス2.9% | ○ | ○ | 2008年4月 |
| | ファミビル | ファミシクロビル | プラス2.9% | ○ | 市 | 2008年6月 |
| 味の素製薬 | 【提携販売品】アクトネル錠75mg | リセドロン酸ナトリウム水和物 | プラス1.4% | 未発売 | 未発売 | 2013年2月 |
| | アルギル配合顆粒 | L-アルギニン塩酸塩、L-アルギニン | プラス2.9% | ○ | ○ | 2009年9月 |
| あすか製薬 | メノエイドコンピパッチ | エストラジオール酢酸ノルエチステロン | プラス2.9% | ○ | ○ | 2008年12月 |
| | ミンクリア内用散布液0.8% | l-メントール | プラス2.9% | 未発売 | ○ | 2010年12月 |
| アステラス製薬 | アコファイド錠100mg | アコチアミド塩酸塩水和物 | プラス2.8% | 未発売 | 未発売 | NA |
| | キックリンカプセル250mg | ピキサロマー | プラス2.7% | 未発売 | 未発売 | NA |
| | ゴナックス皮下注用80mg | 注射用デガレリクス酢酸塩 | プラス2.9% | 未発売 | 未発売 | NA |
| | ピソノテープ4mg | ピソプロロール | プラス2.9% | 未発売 | 未発売 | NA |
| | レグナイト錠300mg | ガバベンチン エナカルビル | プラス2.8% | 未発売 | 未発売 | NA |
| | ベタニス錠50mg | ミラベグロン | プラス2.9% | 未発売 | ○ | NA |
| | ボノテオ錠50mg | ミノドロン酸水和物 | プラス2.0% | ○ | ○ | NA |
| | シムビコートタービュヘイラー60吸入 | ブデソニド/ホルモテロールフマル酸塩水和物 | プラス2.5% | × | ○ | NA |
| | ベシケアOD錠5mg | コハク酸ソリフェナシン | プラス2.9% | ○ | ○ | NA |
| | イリボ-錠5μg | ラモセトロン塩酸塩 | プラス2.9% | ○ | ○ | NA |
| | グラセプターカプセル1mg | タクロリムス水和物 | プラス2.9% | ○ | ○ | NA |
| | ファンガード50mg | ミカファンギンナトリウム | プラス2.3% | ○ | ○ | NA |
| | ケアロードLA錠60μg | ベラプロストナトリウム | プラス2.8% | × | ○ | NA |
| | プロトピック軟膏0.03%小児用 | タクロリムス水和物 | プラス2.9% | ○ | ○ | NA |
| | セレコックス錠100mg | セレコキシブ | プラス2.2% | ○ | 市 | NA |
| アルフレッサファーマ | モディオダール錠100mg | モダフィニル | プラス2.8% | ○ | ○ | 2007年3月 |
| | コレアジン錠12.5mg | テトラベナジン | プラス2.9% | 未発売 | 未発売 | 2013年2月 |
| | ノベルジンカプセル25mg | 酢酸亜鉛水和物 | プラス2.9% | ○ | ○ | 2008年4月 |
| | ノベルジンカプセル50mg | 酢酸亜鉛水和物 | プラス2.9% | ○ | ○ | 2008年4月 |
| | ノベルバル静注用250mg | フェノバルピタールナトリウム | プラス2.7% | ○ | ○ | 2008年12月 |
| | マイスタン錠5mg | クロバザム | プラス2.9% | ○ | ○ | 2000年5月 |
| | マイスタン錠10mg | クロバザム | プラス2.8% | ○ | ○ | 2000年5月 |
| | マイスタン細粒1% | クロバザム | プラス2.9% | ○ | ○ | 2003年7月 |

③⑥薬局機能 調剤報酬(技術料)に関して

調剤基本料 4,988億円 + 薬学管理料 3,110億円 + 調剤料 9,584億円

(平成26年度調剤医療費速報値 H27.9.3より)

★薬剤のパッケージ化・機械化が進み、実際には限界費用(1つの処方箋の処
理に係る追加的な費用)がゼロに近い状態にも関わらず、薬剤の処方量や処
方日数に応じた従量料金となっている。

★保険薬局の報酬体系が受付業務やピッキング業務など低スキルの部分に
手厚く、重複防止加算(20点・10点)・ハイリスク薬加算(5点)・乳幼児服薬加算
(5点)など、高スキル(形のないサービス)に対しては低額な構造となっている。

★お薬手帳が一人当たり多数発行されるなど「一元管理」は形骸化している。
スマホなどにタッチで薬歴を入力するサービス、マイナンバー利用など、「一元
管理」の手法を見直すべきである。

★何らかの専門的なサービスが提供されない以上、患者にとって「かかりつけ
薬局」を持つインセンティブは生まれにくい。(薬を早く安く貰えればそれで十分)

③⑥ かかりつけ薬局機能としての基準調剤加算 在宅療養を支援する薬局における基準調剤加算1・2(約700億)

: 加算1の算定割合**51.7%**: 加算2の算定割合**8.2%**

(H26.6 社会保険診療行為別調査、調剤基本料算定回数に占める比率)

https://www.e-rapport.jp/news/mms_news/no119/02.html

| 基準調剤加算の施設基準 | | |
|---|------------------------------|---------------------------------|
| 【主な施設基準】 麻薬小売業者の許可、地域の保健医療機関や患者の需要に対応できる開局時間、在宅を行う旨の薬局内掲示及び薬剤情報提供文書への記載、「薬局の求められるべき機能とあるべき姿」についてに掲げられる機能の整備等のかかりつけ薬局が満たすべき事項を満たしている。 | | |
| 項目 | 基準調剤加算1 | 基準調剤加算2 |
| ①24時間調剤 及び 在宅業務の体制 | 近隣の薬局と連携(10以内) | 単独の薬局 |
| ②処方せん受付回数 | 月4,000回超の薬局において、 集中度70%以下 | 月600回超の薬局において、 集中度70%以下 |
| ③医薬品の備蓄 | 700品目以上の医薬品の備蓄 | 1,000品目以上の医薬品の備蓄 |
| ④在宅業務を行うに つき必要な体制の整備 | — | 医療材料、衛生材料を供給できる 体制、在宅実施体制の周知 |
| ⑤在宅の実績 | — | 過去1年間10件以上 |
| ⑥在宅療養支援診療所 (又は在宅療養支援病院)、 訪問看護ステーションとの連携 体制の整備 | — | 必要 |
| ⑦ケアマネージャーとの 連携体制の整備 | — | 必要 |

加算要件がH26改定で厳格化されたにも関わらず、
全国の5.7万薬局の業務の内、**59.9%**が**24時間調剤及び在宅業務対応していること**
になっている。24時間対応の実績に基づいたかかりつけ薬局機能の議論が必要

③⑥ かかりつけ薬局機能としての備蓄品目数

(中医協資料:H27.10.7)

医薬品の備蓄は中央値で892品目を超えており、700品目以上の備蓄は殆どの保険薬局で達成されていると考えられる

図表 39 医薬品の備蓄品目数 (n=370)

| | | 平成 25 年 9 月 または把握可能 な 25 年度の末 日時点 | 平成 26 年 9 月 または把握可 能な直近の末 日時点 | 増加率 |
|---------------------|------|--|--|-------|
| 医薬品全品目数 (A) | 平均値 | 916.5 | 968.9 | 5.7% |
| | 標準偏差 | 412.8 | 431.7 | |
| | 中央値 | 836.0 | 892.5 | |
| うち、後発医薬 品の品目数(B) | 平均値 | 187.1 | 228.6 | 22.2% |
| | 標準偏差 | 126.0 | 138.9 | |
| | 中央値 | 167.5 | 203.0 | |
| (B) / (A) | 平均値 | 20.4% | 23.6% | |
| | 中央値 | 20.0% | 22.7% | |

(注) 医薬品の備蓄品目数、在庫金額、購入金額、廃棄額の全ての項目について回答のあった 370 施設を集計対象とした。

③⑥ かかりつけ薬局機能としての備蓄コスト(廃棄率)

(中医協資料H23.10.21)

医薬品の廃棄率(在庫に対する金額比)は**全体で0.45%**
 後発医薬品は0.83%：**備蓄のコストは低廉に抑えられている**

図表 50 医薬品の在庫金額及び廃棄額 (1か月分、n=354)

| | | | 平成22年6月 または把握可能な 22年度の1か月分 | 平成23年6月 または把握可能な 直近1か月分 | 増加率 |
|---------|----------|------|----------------------------------|-------------------------------|-------|
| 在庫金額(円) | 医薬品全品目 | 平均値 | 7,552,080 | 8,206,415 | 8.7% |
| | | 標準偏差 | 8,051,013 | 8,623,995 | |
| | | 中央値 | 5,595,591 | 6,110,000 | 9.2% |
| | うち、後発医薬品 | 平均値 | 786,810 | 941,389 | 19.6% |
| | | 標準偏差 | 1,376,928 | 1,344,672 | |
| | | 中央値 | 450,737 | 590,648 | 31.0% |
| 廃棄額(円) | 医薬品全品目 | 平均値 | 34,400 | 37,228 | 8.2% |
| | | 標準偏差 | 74,386 | 82,097 | |
| | | 中央値 | 10,000 | 10,000 | 0.0% |
| | うち、後発医薬品 | 平均値 | 5,724 | 7,857 | 37.3% |
| | | 標準偏差 | 24,861 | 32,376 | |
| | | 中央値 | 500 | 747 | 49.4% |

(注) 医薬品の在庫金額・廃棄額について回答のあった354施設を集計対象とした。